

2017年度国際版画美術館事業報告書【講座・イベント版】

プログラム名	「インプリントまちだ展2017」関連催事 ②公開制作「誰かと繋がる版画制作」				
講師等	ながさわたかひろ氏（美術家）		担当者名	普及係 上村 牧子	
開催日・時間	2017年9月2日土曜日 13:30～16:00		場所	アトリエ・版画工房	
参加方法	会場へ直接来場（開場は13:00から）		参加者対象	来館者、版画制作に携わる方、 展覧会参加企画の参加者。	
参加者数	実績	収容人数	市民率	応募者数	当選倍率（受講歴による調整を実施）
	54人	50人程度	—	—	—
事業概要	<p>「インプリントまちだ展2017」の関連催事として、出品作家のながさわたかひろ氏による館内での公開制作※を行なった。</p> <p>公開制作では前半に出品作家のながさわたかひろ氏に作家活動をお話しいただき、後半は銅版木の刷りを実演していただいた。</p> <p>実演用の版は、展覧会の参加企画「アナタに褒められたくて」において、展覧会来場者をモデルとしてながさわ氏が版に描き、当館の版画工房で製版した3枚のうちの1枚を使用した。</p> <p>刷りの実演をしていただいた後、予め刷っておいた参加企画「アナタに褒められたくて」の作品をモデルとなった方毎に切り取り、サインを入れてその方に手渡すことで、「〇〇に褒められたくて」シリーズの完成を来場者に体験していただいた。</p> <p>※公開制作（作家招聘事業）は、作家が制作する場を見たり、語る言葉を聞いたりすることで、作家や作品への理解を深め、美術への関心を高めることを目的として、当館が開館した1987年から開催している。</p>				
ねらい	実技指導	展覧会関連	学校連携	友の会連携	その他
	<p>・展覧会出品作家の言葉と制作の実演を通して、作品への理解を深める。</p> <p>・展覧会に興味を持っていただき、更なる来館につなげる。</p>				
主な収入	参加無料			その他の特定財源	
				0 円	
事業経費	<p>●予算 150千円 ※中学校との連携授業(7/4実施)も含む 国際版画美術館展示事業&gt;13委託料&gt;49イベント業務委託料&gt;インプリントまちだ(公開制作)150,000円</p> <p>●人件費 9千円 ※市職員を除く。 臨時職員8,850円(1日分)</p> <p style="text-align: right;"><b>合計:159千円</b></p>				
主な広報・取材等	<p>広報 展覧会チラシ、公開制作チラシ(館内印刷)、広報まちだ、国際版画美術館ホームページ、 取材 なし</p>				
アンケート結果	回収数	回収率	回答した市民率	回答した市外者率	満足度
	46件	85%	46%	54% 無記入含む	84%
	主なご意見	別紙のとおり。			
反省点と改善方法	予備調査	「インプリントまちだ展2017」の招聘作家に内定した時点から開始。2017年1月の個展やイベントを調査した。			
	打合せ	作家を交えた主な打ち合わせには展覧会担当者と公開制作担当者が同席した。個別の打ち合わせは主にメールで行なった。スムーズに準備が進んだことから妥当だったと思われる。			
	準備、備品等手配	<p>○参加企画「アナタに褒められたくて」で使用使用する銅版の下準備や製版、刷りの作業を行なうため、当館版画工房を展覧会開会期中に5日間使用した。版や紙、消耗品類は版画工房の在庫で対応したが、グラウンドやインクは作家が普段使用しているものを持参した。</p> <p>○作家活動を紹介する画像は作家に提供してもらい、美術館の担当者がプレゼンテーション用ソフトでまとめた。</p> <p>当日まで円滑に進行したことから日程や材料準備は妥当だったと思われる。</p>			
	広報	ホームページや展覧会チラシで広報したほか、館の印刷機で公開制作のチラシを作成し、市内施設へ配布した。次回からはどのチラシを見て来館したかアンケートで調査したい。			
	会場設営	<p>【アトリエ】廊下に受付を設置し、クリップボードにアンケート用紙と銅版画技法の解説を挟み配布した。会場内にはスクリーンに作品画像などを投影するためプロジェクターを設置。スクリーン前にながさわ氏の席を用意し、机を挟んで向かい合うように来場者用の丸椅子を並べた。壁沿いに机を配置し、銅版画の技法を紹介する資料や道具を展示したほか、参加企画「アナタに褒められたくて」のモデルになった方にスムーズに作品を手渡すための準備をした。</p> <p>【版画工房】プレス機が多数あるために狭いが、床に養生テープを貼って観覧できるエリアを区切る等準備をしたため混乱なく進行できた。作家との距離が近くなり、小学生も熱心に見ていた。</p> <p>版画工房が狭く気がかりであったが、混乱はなかった。アンケートの結果からも会場設営は妥当であったと思われる。</p>			
	当日進行	<p>○会場案内、作品監視、記録(写真)を普及係職員5人で行ったが、来館者をエントランスから会場まで誘導し、会場前の受付でクリップボードを手渡す人員が不足した。次回からエントランスと受付にボランティアを配置し、展覧会を見終わった方などをスムーズに誘導できるようにしたい。</p> <p>○版画工房での実演が早く進んだため、予定を繰り上げていったん中締めをしたところ、ほとんどの方が退室してしまった。中締めのアナウンスをする際に、ながさわ氏のコンセプトは刷りあげた作品をモデルになった方へ手渡すことで完成することを改めてご案内すべきであった。</p> <p>○参加企画のモデルになった方の来場人数を4～5人と想定していたが、それを超える9人が来場された。そのため作品を手渡すのに予定以上の時間がかかり、20分遅れて終了した。</p>			
その他特記事項	アンケートからは作家の説明と実演が見られて良かった、作家の人柄と作品に込めた思いが伝わってきた、といった好意的な感想が多く見られた。ねらいの一つである作品への理解を深めるきっかけになったと思われる。				

## 館内での公開制作の様子



1 会場風景(アトリエ)  
作品や制作風景の画像を投影し、作家活動についてお話していただく。



2 会場風景(版画工房)  
参加企画「アナタに褒められたくて」で制作した銅版を使い、刷りの実演をしていただく。



3 銅版にインクを詰める。



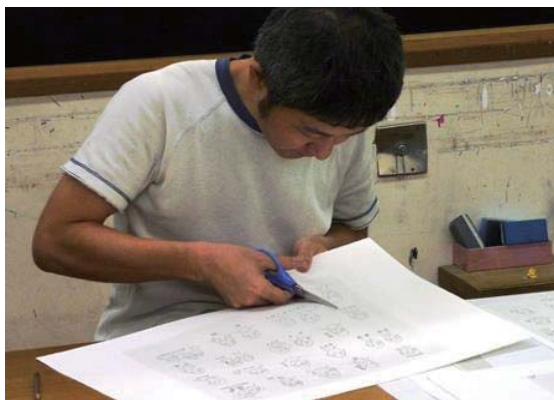
4 プレス機の準備をする。



5 プレスが終わり、刷った紙を版から外す。



6 水張りした作品と版を見比べる観客。



7 実演後にアトリエへ戻り、参加企画「アナタに褒められたくて」でモデルになった方へ刷った作品を渡すため、その方の部分を切り取りサインを入れる。



8 モデルになった方へ作品を手渡し、「アナタに褒められたくて」が完成。ながわ氏の制作コンセプトを実感する瞬間に自然と拍手がおこった。

## ◆◆ 町田市立国際版画美術館 2017年度公開制作アンケート 集計結果 ◆◆

## 「誰かと繋がる版画制作」

招聘作家:ながさわたかひろ(銅版画の刷りを実演)

実施日:2017年9月2日土曜日(全1回) 見学者数:54名 回答数:46名

## 1、このイベントを何でお知りになりましたか？(複数回答可)

無回答	1	
版画美術館HP	4	
広報まちだ	4	
チラシ	1	チラシ=当館
来館して知った	33	
その他	3	その他=作家のツイッターから(1)、口コミ(1)、展示案内(1)

計 46

## 2、イベントをご覧になった感想をお聞かせください。

無回答	3
非常に満足	17
満足	22
ふつう	4
やや不満	0
不満	0

計 46

## 3、イベントの内容は良かったと思いますか？

無回答	4
非常にそう思う	17
そう思う	22
ふつう	3
あまり思わない	0
思わない	0

計 46

## 4、解説・説明はわかりやすかったと思いますか？

無回答	4
非常にそう思う	17
そう思う	22
ふつう	3
あまり思わない	0
思わない	0

計 46

## 5、会場設営について(見やすさなど)は良かったと思いますか？

無回答	4
非常にそう思う	12
そう思う	19
ふつう	11
あまり思わない	0
思わない	0

計 46

## 6、他に見たい版画制作はありますか？(複数回答可)

無回答	9	
銅版画	8	
リトグラフ	16	
スクリーンプリント	6	
木版画	20	
その他	2	その他=はがし刷り、エングレーヴィング、木口木版

計 61



7、版画の制作経験はおありですか？（複数回答可）

無回答	6	②銅版画の制作経験がある (過去数回 6人、過去数年間 0人、現在も続けている 1人、)
経験はない	27	
銅版画の経験がある	7	③他の版種の制作経験がある (木版画 7人、リトグラフ 3人、スクリーンP 3人、無回答1人)
他版種の経験がある	14	

計 54

8、【性別】

無回答	3
男性	24
女性	19

計 46

9、【年齢】

無回答	1
8歳	3
10歳代	1
20歳代	6
30歳代	6
40歳代	10
50歳代	7
60歳代	8
70歳代	4
80歳代	0

計 46

10、【お住まい】

無回答	3	その他＝相模原市(2)、横浜市(10)、八王子市(1)、川崎市(1)、日野市(1)、小平市(2)、厚木市、(1)、都内(1)、無記入(3)
町田市内	21	
その他	22	

計 46

その他、ご感想やご意見など

- ・ながさわさんの話が面白かった、励まされた、人柄と作品に込めた気迫が伝わった(9)
- ・またイベントをしてほしい、また来て見たい(3)
- ・説明と実演を見られてよかった(9)
- ・作家に近い楽しいイベントだった(2)
- ・版画が身近に感じられた(1)
- ・展示会場のながさわさんの作品が良かった(2)
- ・ゼルビアサポーターで息子と来ました。
- ・百間は一見に如かず、感動した。
- ・銅版画の刷り方が想像と違って驚いた。
- ・説明が分かりやすく、小学3年生でも興味深く聞いていた。体験コース等、親子で参加できたら楽しそう。
- ・20年振りに版画美術館へ来るきっかけになった、似顔絵を描いて頂き、ありがとう。
- ・映像で記録しておけばとても貴重なドキュメントになる。snsで公開すれば、版画美術の振興につながり、美術館の存在感を高めることができる。
- ・孫が版画に興味を持っているので、当館を見せたい。子供がサッカー好きだったので、選手を応援したい。
- ・卒業制作のレリーフ銅版画とか作ってみたかった。青森出身なので棟方志功の版画に興味がある。